

事業名：6 魚病対策事業

期間：平成18年度～

予算額：H29年度2,153千円（うち国庫718千円）

担当：養殖・漁場環境室（西田 智亮）

目的：養殖魚の魚病による漁業被害低減のために予防対策、魚病検査、魚病の蔓延防止を行うことで養殖生産の安定化を図る。

## 成果の要約

### 1) 事業内容：

#### (1) 魚病の防疫に関する情報収集

魚病に関する全国会議や地方ブロック会議へ参加し、魚病の防疫に関する情報収集を行う。

#### (2) 養殖衛生管理指導・養殖場調査・疾病対策指導

魚病の検査や、養殖場の巡回を行い、適正な養殖を推進し、食の安全を守るとともに、病気の蔓延などを防止する。

#### (3) 種苗生産魚・中間育成魚・養殖魚・天然魚に発生する問題となっている疾病対策

県内で問題となっている魚病について調査、研究を行い、蔓延状況を把握や対策を講じる。

### 2) 結果の概要

#### (1) 魚病の防疫に関する情報収集

魚病の防疫に関する情報収集のため、会議に参加した。参加した会議を表1に示した。

表1 2017年度に参加した会議

日付	会議名
9月20日、 21日	近畿中国四国ブロック内水面魚類防疫 検討会
9月21日	魚類防疫士連絡協議会
10月24日	水産用医薬品薬事監視講習会
10月26日、 27日	西部日本海ブロック魚類防疫対策会議
12月6日、 7日	魚病症例研究会、魚病部会
3月2日	全国養殖衛生管理推進会議

#### (2) 養殖衛生管理指導・養殖場調査・疾病対策指導

2017年度の巡回件数は44回行った。魚病対応が最も多く15件、巡回指導が次に多く10件であった。魚病診断件数は22件であった（表2）。

近年は新たなサケ・マス養殖業者の参入などがあり、サケ・マスの生産量の増大に伴い、サケ・マスの魚病診

断件数が増加している。今後はこれまでに見られなかったサケ・マスの魚病が発生することも考えられる。

#### (3) 種苗生産魚・中間育成魚・養殖魚・天然魚に発生する問題となっている疾病対策

内水面ではイワナ、ヤマメで細菌性鰓病が発生した。塩水浴により、対処した。過密飼育が発生原因と考えられ、今後は適正な密度で飼育するよう指導した。

海面ではマサバとウマヅラハギにおいて、アミルウージニウム症が発生した。換水率を上げ、銅ウールを使用して対処した。

## 成果の活用

県内の魚病被害の軽減及び蔓延防止に活用した。

表2 2017年度疾病診断状況

内水面			
区分	魚種	病名	診断件数 合計
養殖	ギンザケ	不明	3
	サクラマス	IPN	1
	ニジマス	冷水病	1
	ヤマメ	細菌性鰓病	1
	イワナ	細菌性鰓病	1
	ドジョウ	エロモナス・ハイドロフィラ	1
天然	ニシキゴイ	KHV	1
民家池	マゴイ	不明(KHV検査陰性)	2
		KHV	2
	ニシキゴイ	不明(KHV検査陰性)	1
海面			
区分	魚種	病名	診断件数 合計
養殖	マサバ	ピブリオ病	1
		アミルウージニウム症	1
養殖	ウマヅラハギ	アミルウージニウム症	2
養殖	キジハタ	原因不明	2
天然	ズワイガニ	原因不明(体色異常)	1
養殖	ヒラメ	トリロジナ症?	1
8			